

希望 21

ありふれたことだけど
かけがえのない
希望がここにある

People's Hope for 21 century

平和・自治・共生

No.28

1部 200円 年間購読 3000円

神奈川県相模原市上鶴間2973-3-110

TEL & FAX 0427-40-4794

NIFTYserve ID: JAH03412

郵便振替: 00100-1-97125 希望 21



グローバリズムの 対抗軸としての地域の可能性

弱いものが割をくらう政治は、 もラウンザリ!

世論調査によると、「今、減税による景気対策よりも行財政改革を優先すべし」の声が50%を越えているといえます。その場しのぎの減税が、問題の根本的な解決にならない事をいやと言うほど知らされてしまったためでしょうか。後になってツケを払わされるのは、結局自分たちであり、もっと言えばより弱い立場のものが割を食う。そうした政治のあり方が変わらない限り、この設問が多くの人々にとって「今やっている改革をきちんとやりぬくか、中途半端な挫折のまま先送りするのか」と言う設問にしか聞こえなくても、それは当たり前のような気がします。

この出口のない日本社会の現実を、本誌先号の巻頭言は「グローバリズムのブラックホール」と呼びました。市場の国際化に見合った日本の政治・経済構造の大がかりな作り替えを目指した行政改革は、壊し屋としてこれまでの日本社会の膿を小出しにししながら、自分で出した結果にあわてて、取り繕った責任をなすり合ったりしたすえに、結局その負債を「国民」に押しつける事しか出来ない。その右往左往が、日本で今「政治」と呼ばれている事の掛け値のない実態ではないかと思えます。

規制すべきは 無制限な多国籍企業の活動

グローバリズムの波は、日本だけを襲っている現象ではありません。国境を越え、地球規模での市場を前提とした企業活動が、生き残りをかけて私たちの生活のすみずみにまで競争を持ち込み、私たちの想像を越えた範囲で私たち自身の生活をまるごと変えていきます。しかも多国籍化した企業活動にとって、たとえ国といえども一国単位で見ればその他大勢の一要素に過ぎません。ひとつの国の経済的安定は、これらの企業活動にとってたとえ望ましい事ではあったとしてもその企業の死活問題からはますます遠いものになっていきます。むしろあらゆる所で規制緩和を迫り、そのことによって招いた混乱をあらたなビジネス・チャンスの特場として、グローバリズムの波は、世界中を覆っています。

このうえなく無責任な多国籍化した企業活動を、人々の暮らしの立場からどう規制していくのかと言う問題は、世界の多くの人々にとって正に死活の問題になっています。日本も例外ではありません。この問題を正面から見据えない限り、私たちは私たち自身の選択肢を明確にし、出口の見えない政治的・経済的混迷の中から抜け出すことが出来ないのだと思えます。

新しい政治選択の内容を明確に

グローバリズムの波の中で、人々の暮らしの立場

に立ちもう一度アジアの中のひとつの小国として生き直す道を、私たちは選びたいと思います。そのことが可能なら、この小さな国がアメリカと一緒にあって地球規模の軍事力を誇示する必要も、アクロバットのようないやうなやり方で平和憲法を死に追いやるため、自分たちの子どもたちにとっても分かりやすくは説明できないような屁理屈の一切切も必要ないはずで、そして何よりも私たち自身がこの閉息感を振り払ってもっともっと自由になれるはずで。

残念ながらこの選択肢は、まだ形を成していません。つまり、政治潮流、人々がそれを共有できる明確な政治的選択肢となり、そこに人々の生きるための色々な知恵や議論が集まってくるという構造を創り出しえていないからです。私たちは、そうした政治を地域から作っていかうと呼びかけてきました。

地域（ローカル）とは、国政に対する地域の自治という狭い意味を越えて、グローバリズムに対する対抗軸をここにしっかりと立てきりたいからです。そうでなければ、地方の時代は単なる地方の切り捨て、それ

こそ使い捨て自由なビジネス・チャンスの狩場に変えられるしかないからです。

地域が政治を変えていく

医療や福祉をはじめ競争原理に決して委ねてきてはならない領域を人々の生活の立場から判断し、政治的決断を下せるのは、そこで生活する人々以外にありえません。野放図な環境破壊に拍車をかける多国籍化した企業の活動を常に監視の下に置き、人々の暮らしの立場から制限を加えるには、国家という道具はあまりにも無力です。それができるのは、地域に足場を置いた人々の開かれたネットワーク以外にないでしょう。その可能性が選択肢として見えてきたとき、人々の知恵や議論が集まってくる構造が少しづつ形を成してくるのだと思います。

今がその産みの苦しみの過程にあるのなら、私たちは多くの人々の目に見える形にまで押し上げるため、全力で努力をして行きたいと思ひます。

津田光太郎（希望21京都・全国委員）

市民の絆・東京 発足イベント

歌って、語ろう、市民の政治

98年2月11日（水曜日・休日）

午後1時30分 会場 午後2時開始

新大久保 R'sアートコート

新宿区大久保1-9-10労音大久保会館内R'sアートコート

TEL03-5273-0806 FAX03-5273-0811

第1部 パネルシンポジウム

石川 真澄さん（新潟国際情報大学）

福島瑞穂さん（弁護士）

保坂展人さん（衆議院議員）

第2部 ライブコンサート

喜納昌吉&チャンブルーズ



前売り¥800/当日¥1,000 絶賛前売り中！！

予約&問合せ：市民の絆・事務局 〕03-5570-5508

主催：市民の絆・東京準備会

戦争はイヤダ！！21世紀へ平和をつなぐ 人々の行動・尼崎始まる

田中寿男（希望21尼崎）

**戦争を振り返って平和を考えなあかんのは8月15日だけやない！
これからは毎月14日が・・・**

■終戦記念日は・・・？と聞かれると8月15日と答えるのが「常識」・・・なんですが、実は！！日本が本当にポツダム宣言を受諾したのは1945年8月14日なのです。その次の日、国中の人々にその知らせが行き届きました。負けて悔しいと思った人も多くいたでしょうが、その反対に、やっと戦争が終わって、とにかくホッとした人もたくさんいただろうと思います。

そこで！！私たちは毎月14日に21世紀へ平和をつなごうというデモンストレーションをすることにしました。あんまり肩ひじ張らずに、散歩がてらプラプラとでもええんやないかと思えます。デモの後には年輩のオッチャンも若い人も参加者みんなで、喫茶店で休憩しながら楽しい井戸端会議でもでけたらええなあ思っています。

■日本では戦争の体験を語る人が少なくなってきました。だんだん戦争の記憶が風化する中で、国政では、日米がドラインやらいう「戦争の手引書」をもとにきな臭い有事法案がこの国会にも上程されようとする。組織犯罪対策と称して、国家による盗聴も可能になる法案もまたまた出てくるかもしれん。国民総背番号制の法案も出る言う噂もある。21世紀を前にして、日本はとんでもないことをまたまたやらかそうとしてるような気がします。

そんな状況の中で、21世紀を平和な世界として作り出していくために、地域でワシラに何が出来るんやろうといろいろ考えた末に、無理せずに誰もが平和の声を上げることのできるデモがええんとちゃうやらかということになりました。

政治に対し、おかしいことはおかしいと言え、嫌なことはイヤダと声を上げることの出来る町中のオッチャン、おばちゃん、兄ちゃん、姉ちゃん、誰もが参加できる自然なスタイルのデモが目標です。ふと思いついたとき、気が向いたとき、デモを見かけたとき、あなたも参加してみてください。

■というわけで、昨年12月14日、はじめての取り組みを行いました。9名の参加者でした。これが多いか少ないかはともかく、予定よりは多かったです。そして、とにかく始まったのです！

阪急塚口駅前で、街頭演説を20分ほどしながらピラをまきました。それから駅周辺をデモをしながら、またまたピラまき。ピラはそれなりに受けとってもらえ、始めてよかったなあという気持ちにもなりました。

その後の反省会では、これからどういう風にしていこうかといろんな意見が出ました。例えば、自分らが21世紀に向けて何していこうとしているのか、もっと鮮明にしていくこと。軍縮なら、軍縮の提案を具体的に周りの人にも見えるようにすること。今の状況として新がドライン有事法制という流れがあるので、それに反対するピラも撒いた方がええ。それから、あんまりがドラインのことが見えないのでその学習会も呼びかけてみたらどうか。街頭演説も、自分らが何をデモで訴えようとしてるのか、自分らにはっきりしてないので事前の原稿も用意した方がよい。アピールできる人はどんどん街頭でアピールしてもらおう。冬の夕方6時30分、暗い中ゾロゾロ歩いているだけでは、訴える力弱いんで、歌や音楽、パフォーマンスなんかいろいろ工夫せなあかん・・・。

いずれにしても、平和を作り出していくにはいろんな切り口からの取り組みがあるわけで、様々な人々の取り組みと連帯し、力を合わせいく必要があります。知り合いに呼びかけ、知り合いの知り合いに呼びかけ、多くの人の知恵と力で、21世紀へ平和をつなぐ尼崎の行動としてがんばっていきたくと思っています。

(P.S. ちなみに、1月デモは、雨にもかかわらず12名の参加でした。)

毎月14日 午後6:30集合！！

集合場所（予定）

- 1月JR尼崎駅南側
- 2月阪神杭瀬駅
- 3月阪急園田駅北側
- 4月JR立花駅北側
- 5月阪神尼崎駅北側
- 6月阪急武庫之荘駅南側



3連続選挙戦に果敢に挑戦

第1弾は日野市議選

三浦富喜夫（希望21・三多摩）

希望21・三多摩は、これから1年以上にわたって、連続して選挙戦に挑戦（没頭）することに多分なるでしょう。その第1弾は、今年2月の日野市議選。第2弾は7月の参院選。その直後からは翌年の来年4月の統一地方選の斗いに全力投球。こんな長期戦は苦手なのですが、最近の政治状況を観ていると、いつのまにか「もう黙ってはおれん」なんて気分が沸いて、終わってみると、やり切っていた、なんてことになっているかも知れません。

全国的にも、98年は政治が動く年、できるだけ人々の側からの転換点としての政治の年としたいものです。希望21の真価も問われる年になるでしょう。そんな事を肝に銘じながら、三多摩での取り組み、日野市議選真っ只中の報告をさせていただきます。

4年半の活動を続けた『市民会議』

今回の選挙でも市民の先頭で汗を流しているのが『市民会議』。発足は今から4年半前に溯る。半年後に市議選を控え、市民運動の一部活動家の中の「井戸端」会議で、「もう、後援会的な在り方を脱却した市民選挙をやろうよ」という提案が出された。その時は、別に反論する余地も無い提案で、これといった反論はなかった。だが、内心は「そんなこと言ってんけど、本気かよ!」と思った人が多かった。それは、後の本格的な会の有り様の議論で明らかになった。「半年後に市議選を控えているのに、難しい議論をして、結論がでるのかしらねえ。選挙だけなら関われる人も結構多いよ。時間がもったいない。純粋選挙の話でいこうよ」という声が支配的だった。

そんな中、『市民会議』の位置づけや会の運営のことなどは半分以上後回しの状態で、『市民会議』が母体となった市議選が開始された。ドタバタ続きの前回の選挙では、30議席のところ26位当選を果たしたことで、生きるか死ぬか判らない市民会議は、現在まで一つの市民の政治勢力として市民権を獲得して行く。

その過程として2つの例を紹介してみたい。一つは、どの政党にもどの議員にも相談にのってもらえなかった区画整理問題、もう一つは、2400世帯の公団住宅の建て替え問題です。共産党が最後の頼みの綱。そんな市民の願いもこの2つの問題ではあっさりと裏切られた。当時日野市の場合は、共産党は革新市政の少数与党で、この区画整理問題や団地建て替え問題を住民本位で取り上げると、市長攻撃になるとの判断から、市長防衛の立場。野党の保守系各派は、これとばかりに市長選の政争の具としてこれを利用したが、市民の多くはお見通し。区画整理問題を追求した地権者の会や建て替え問題で闘う団地自治会と市民会議は、そんな貧困な地方政治の中で、同じ思いでつながった。

4年半前に積み残した市民会議の位置づけや役割などについては、活動の積み重ねの中で、自然のうちに形づくられた格好だ。でも、共通の言葉で表現したことはない。敢えて個人的に表現すると、「市民の政治勢力」「個人の統一戦線」といったところだろうか。

今回の選挙選は、したがって、候補者への評価のみならず、市民会議への有権者の評価の側面が色濃く反映されるものになってくる。

4年後に複数議員を擁する市民会議へ

今回の選挙では、さらに4年後を見据えて目標を掲げた。2000票、中位当選だ。4年後に複数の候補者を擁立するための足掛かりを今回是非とも築いておきたい、そんな皆の思いが込められている。通常では前回に600票の上積みは「至難の業」に近い。だが、市民会議の枠での統一戦線が拡がれば、そこに可能性が生まれる。そういう意味では、選挙は新しい政治の流れを創っていくための宣伝戦であり、それが市民の政治勢力拡大の組織化に結びつかなければ力として蓄積できない。

護憲派・市民派乱立、市民政党が必要

昨年4月の市長選の際、ある大企業議員はマスコミのインタビューに対し、こう言い放った。「これまでは保守分裂の時代。これからは革新分裂の時代だ」と。確かに市長選の状況はそれに近い状況で、僅差で保守に市政を明け渡すことになった。今回の市議選では、特に無党派の候補者が調整不可能なまま乱立となってしまっている。（30議席に対し40名の立候補）ある自民党の選挙陣営が作成した立候補状況と分析では、調整がつかず二人以上立候補した陣営には『〇〇分派』と記されている。保守の現職10議席と



企業候補4議席および公明5議席、共産5議席は当選は動かない。つまり残り6議席を争って、生活者ネット2（現職1、）社民2（現職1）、新社会2（現職0）、東京市民新人1、共産党新人、共産党系市民運動派2（現職1）、無所属市民派4（現職4）が鏝ぜり合いを演じているのだ。前回の選挙では、日野市民連合が調整役となって、無所属市民派4名全員の当選を勝ち取ったが、今回はそうした動きもみられない。選挙後の議会内の勢力関係はすでに見えている。現在より状況が悪くなる事はあっても、良くなることはあり得ないのだ。こうなると市民のなかには、闘う前から敗北感・脱力感が蔓延してしまう。いつまでもみんなバラバラでいたら将来的に市民派・護憲派といった人達は、『身勝手な政治勢力』の代名詞にされてしまうのではないだろうか。統一戦線組織としての地方政

党でもあったら、少なくとも今の日野の状況は改善できるのだが……。

無いものをねだるより、市民会議が市民政党化し既成政党をどう越えていくか、そのために今度の選挙でどうするか、それはやはり、複数候補を擁立できる力をつけること。

◆ 激励を寄せてください。◆

送り先

日野市旭が丘2-19 美成社マンション101

FAX・ 042(582)4631

希望21東京/未来はみんなで作りたい 連続講座企画

現場を訪ね、見て、きいて、考え、 動き出そう！

第1回 高齢者が人間らしく生きられる社会って？

老人ホーム 浴風園をたずねる

* 「浴風園について」 職員のみなさんのお話

* 「介護保健で高齢者福祉はどうなる？」 福士敬子さんのお話

高齢者が豊かに生きられるのか田舎は、その社会が人間にとって本当に豊かな社会であるかどうかの試金石です。杉並区の老人ホーム、「浴風園」を訪ね職員の方々にお話をうかがいます。

♥2月20日（金）6:30~8:30

浴風園内集合

杉並区高井戸西1-12-1

♥当日の連絡は 小島：010-049-1899

♥参加費：1000円

★申し込み・連絡先 菅原 和之

☎&FAX 03-3314-1505

企画のアイデア
スタッフ

大募集！！

みなさんの参加を
お待ちしております。

今月のインタビュー

平山義貴さん

男の子育てを考える会

男の子育てを考える会とは

誕生したのは約20年前。「家事や育児を自分のこととして関わることで、仕事に追われ、役割意識にとらわれてきた従来の「つくられた」オトコの生き方や、男と女の関係を問い直そう。」というのが、会の趣旨です。

「父権」復活の論調を張った新聞社への抗議、シンポジウムの開催、男たちが男たちに向けてつくった「男の育児書」（現代書館）の出版、男性向け公開講座「おとこの寺子屋」の開催、オットコー座による寸劇出前公演、夏合宿などに取り組んできました。おとこの寺子屋で取り上げたテーマは、「優生保護法」から「従軍“慰安”婦」、「日比混血児」と多岐にわたります。また、すでに120回を数える寸劇出前公演では、「介護」や「性別役割分業」といった日常生活の中に潜む男女のありようを問いかけています。

今回は、地域における共同保育に関わり、また事実婚を実践してこられた平山さんに、お話をうかがいました。

インタビュー 篠崎史範（男の子育てを考える会／希望21：未来はみんなでつくり隊）



男の子育てを考える会「オットコー座」
（後列左から3番目が平山さん）

共同保育に関わることで、仲間が広がった

共同保育とのつきあいは、1980年頃から。当時中野にあった「ピーナッツ」という共同保育所に、最初の子どもを連れ合いの産休あけ直後に預けたのが始まりです。その後そのピーナッツは解散してしまったのですが、82年、公立保育園の保母をやっていた連れ合いが、自分の目指す保育をやるために、保育園を辞めて「ごたごた荘」という無認可共同保育所（子どもの数としては20人前後）を練馬区の大泉学園で始めました。

それまでは自分の子どもの子育てだけだったのですが、連れ合いが始めたということもあり、保育所の運営に直接かかわったり、実際に保育に入る（子どもの面倒をみる）など、自分自身のやることに広がりを持てるようになりました。その後保育所が口コミで広がり、また区の助成金が取れたことで財政基盤もすっかりし、安定した運営ができるようになりました。

当時かかわった親達は、運営にも積極的にかかわってきたので、共同保育所を始めたことで次第に人の輪が広まり、地域的なつながりもできました。都会に住んでいるわけですから、いわゆる近所づきあいという

のはあまりなかったのですが、子どもたちを預けている親同士のネットワークができて、例えば忙しいときは子どもを見合ったりしました。制度を変えていこうということになると、行政との関係になりますが、共同保育の仲間たちがいることで、制度がなくてもお互いのやりくりの中で何とか解決することができたわけです。

婚姻届を出さずに暮らすということ

最初はどうってことありません。両方とも働いて収入を持っていましたので、両方の親と一緒に住みますと言い、特別結婚式もやるわけでもなく親兄弟だけに通知しました。当面婚姻届は出さず、しばらく考えてからにするなどと言って。その時は、どちらの親も渋々ではあったかもしれませんが、しょうがないかなという感じでした。その時点では大した問題はありません。問題は、子どもができたらどうしようかということ。子どもができたときに決めたのではなく、子どもができる前にこのことについて彼女とずいぶん議論をしました。彼女の方は子どもができてやはり婚姻届を出さないという選択をしていて、僕の方はそんなに意志が高くありませんでしたから、別

に届けてもいいんじゃないかと思っていました。彼女が届けたくないと言っていたため、あっそう、といった感じです。別に実害もありませんし。両方とも収入を持っていれば関係ない。扶養—被扶養という関係が出てこないわけですから。

その頃、たまたま労働組合の青年部活動をやっていました。当時、狭山闘争、すなわち部落解放運動や、韓国の民主化運動などに組合が取り組んでいまして、自分も参加していました。そうすると差別問題に敏感になってくる。とても高揚していたため、子どもができたからといって届けること自体がおかしいと、僕の方が言い始めました。なぜかといえば、非嫡出子となることで差別されたり偏見を持たれるということが親として不安だとか、そういう親の生き方を子どもに押しつけていいのかという言い方がありますが、そんなことを言っていたら、差別されている人たちは子どもがもてなくなる。確かに彼らは現在差別されているけれども、では子供が産まれたらどうなのか。その社会が変わっていない限り、子どもも差別される。そしたら子供が産めないということになってしまうじゃないですか。すなわち差別する方が悪い。イデオロギー的に高揚していたから、そう口で言ってしまったら、彼女の方は、それはそうだって。ほとんど異にはまってしまった感じです。まあ、それならこのまま婚姻届を出さないでいこうということになりました。実際生まれて何か問題が起こったら、それにぶつかっていけばいいやと。子どもは直接ぶつかれませんから、親がやることをやればいいやと。実際に子どもが生まれて、今は色々な人がやっていますが、当時は走りだった嫡出子と非嫡出子の区別を付けなくて出生届を出すのこのをやりました。出生届を出すさいに、嫡出子か非嫡出子かをチェックする欄があり、かつ嫡出子で1人目の女の子なら「長女」、非嫡出子なら「女」と書かされます。何も親がそんな区別をする必要もない。だから、書かないで出しました。戸籍の運動をやっている人たちと一緒に中野区役所へ行って、窓口闘争をやりました。なかなか言うとおりにはありません。最初は戸籍が作られず、戸籍ができるまで2~3ヶ月かかりました。最終的にはいわゆる付せん処理と言って、役所の方がやっておくという形で戸籍が作られました。

80年代後半頃のごたごた荘には、預けている親に同

姓の夫婦がほとんどいませんでした。婚姻届を出していない人がそこそこいると、次に入ってくる人もそんな人ばかりでしたね。現在のごたごた荘にも、無国籍の子どもたちが何人かいます。無国籍児で困るのはパスポートを取得するとき等ですね。また、僕らの頃は戸籍がなくても住民票は作ってくれましたが、最近では、戸籍がないと住民票も作ってくれないようです。社会の壁がそんな子どもたちに対してあって、みんな苦労しています。(了)

☆2/21(土)に、日野市において寸劇出前公演をやる予定です。また、今年前半のおとこの寺子屋は以下を予定しています。

男の子育てを考える会 連続講座

「おとこの寺子屋」第6期

「父性」「夫婦・家族」「性」を考える
トークセミナー

1. 1/30(金) PM7~9 @カンダパンセ

「父性復権時代」の男の子育て」

石川憲彦氏(静岡大学)

2. 3/27(金) PM7~9 @カンダパンセ

「“家族”の中の男と女—男女共生社会の自分探し」

渡邊寛氏(評論家)

3. 5/29(金) PM7~9 @日本教育会館

「セクシャル・ハラズメントから見た男たちの性」

金子雅臣氏(東京都労働経済局)

編集後記

・記録的な大雪で地上の交通が寸断されていた9日、厚木基地、横田基地、岩国基地では、NLP（夜間離着陸訓練）が当日の通告という前例のない形で、おまけに3基地同時に始まりました。それも土曜日でも日曜日もなく深夜までF14トムキャットが爆音をふりまき続けました。これまでは事前の通告が各自治体にあったのに、今回はそれが全くなく、その説明もないまま。翌10日の米軍準機関誌「星条旗」によると、横須賀を母港とする空母インディペンデンス号が中東へ派遣されることになり、急なNLPになったのが真相のよう。このような生活を無視した軍事訓練が、これからは米軍が「有事」だと判断しただけで、何の問題もなくできるようになっていくのでしょうか。これこそが、日米防衛協力のための新指針の「有事」の姿なのでしょう。

1世紀以上前に日本が結ばされた不平等条約によって、人々の人権が踏みじられていたという歴史の授業を思い出しました。なんだか最近、普天間基地の返還に絡んだヘリポート建設の強要と政府の米国への言いなりの姿勢に、もうこれ以上黙っていたら本当に手遅れになるような気がします。

今年の参議院選挙や沖縄名護市の市長選・市議選は、本当に重要になってきます。ここでがんばって、政治をみんなで変えていきましょう。（千）

希望の21世紀宣言

私たちは、現在のモノ中心の社会を、人間が人間らしく生きることのできる社会へとつくり変えていくことをめざします。

人間らしい社会—人と人が平等に、ともに助け合って、人間が自然の一部としての本来の姿で生きることのできる社会—を実現することこそが、人々の希望です。私たちはそのために、あらゆる領域で民主主義を徹底し、民主主義の実現をはばむものに対してたたかいます。

私たちは、世界に戦争と大国主義の不平等をもたらし憲法改悪を許しません。9条の理念の実態を日本から作っていくことによって世界の平和と民主主義の実現に貢献していきます。国と国とは対等平等の関係にあり、人間らしく生きることの豊かさの尺度に、人々の在り方を人々が決め、どの誰も本当に武力を必要としない国際社会の実現こそが、平和の実現です。

私たちは、地域から国の進路、世界の在り方を決定する政治的なる力をつくっていきます。そのために、私たちの意志、知恵や力を結集し、互いの経験に学び合い、信頼を築き合いながら、自治の実現をめざします。何かに頼ることなく、広範な人々とともに、変革の力をつくり、その統一を推進することを自らの役割とします。

世界の現実を変えること—それは私たち自身の在り方、運動の在り方を変えることなくしては実現できません。私たちは自らを変え、人と人との関係を変えあうなかで、現実を変革していきます。本音を出し合い、あらゆる困難をともに克服し、成功や喜びを、そして失敗や悲しみをも共有し、助け合ってたたかいの輪を広げ、その中に新しい社会を準備していきます。

人間らしい社会の実現をめざし、世界の平和と民主主義を求める人々とともに、希望の実現に向けて進みます。

1部200円 定期購読をよろしくお願ひします！年間購読料3000円（送料込み）

郵便振替：00100-1-97125『希望の21世紀』

希望

21

century

月刊『希望の21世紀』●28号●1998年1月22日

発行●「希望の21世紀」全国委員会 編集●希望21編集委員会

NIFTYserve-ID JAH03412

連絡先●希望21・三多摩

東京都日野市多摩平6-20公住219-5 三浦方

TEL&FAX 0425-82-2407

●希望21・京都

京都市伏見区石田西ノ坪1番地 醍醐石田団地1号棟417号室 吉田方

TEL&FAX 075-572-4445

●希望21・未来はみんなで作る隊

東京都杉並区高円寺南2-39-15 光荘203 菅原方

TEL&FAX 03-3314-1505

●希望・大阪

大阪府守口市外島町6西1-1709井本方

TEL&FAX 06-997-2062